



2015年3月5日

お客様向け資料

BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

### ブラジルの政策金利の引き上げについて

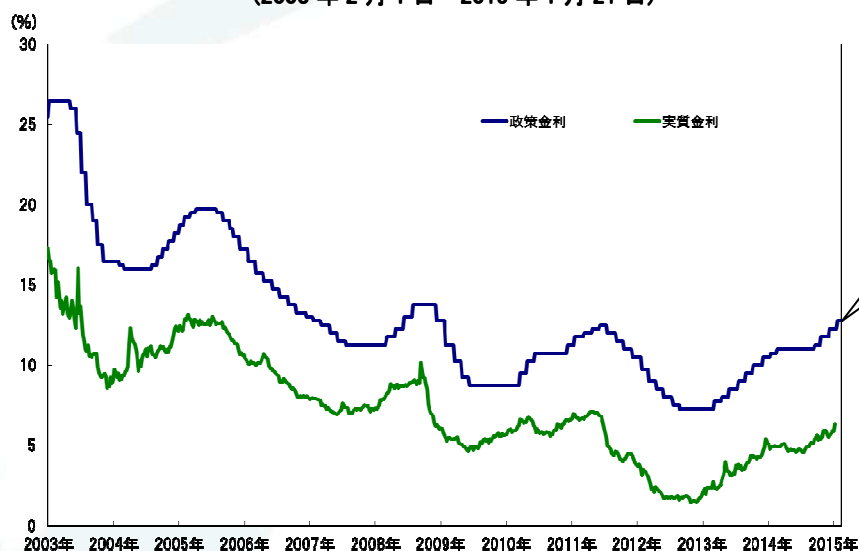
ブラジル中央銀行は、現地 2015 年 3 月 4 日の金融政策委員会(COPOM)で、政策金利(Selic)を 12.25%から 12.75%に引き上げることを決定しました。政策金利の引き上げは、2014 年 10 月と 12 月、2015 年 1 月に続いて 4 会合連続となり、約 6 年ぶりの高水準となります。市場でも、政策金利の引き上げ幅は 0.50%と予想されていました。ブラジル中央銀行は声明文の中で、マクロ経済の行方とインフレ見通しを勘案した結果、今回の利上げを全会一致で決定したと説明しています。

ブラジル地理統計院による 2 月の拡大消費者物価指数(IPCA)の上昇率は前月比でプラス 1.33%でした。前年同月比ではプラス 7.36%と、ブラジル中央銀行の目標の中央値(4.5%)を大きく超過しています。電力、燃料、学費などの値上がり率が年初からインフレ率を押し上げています。

一方、2014 年 1 月の鉱工業生産が前月比プラス 2.0%(季節調整前)と市場予想のプラス 1.5%を上回る伸びとなりました。また、2 月のブラジルのサービス業購買担当者景気指数(PMI)は季節調整後で 52.3 と、1 月の 48.4 から急回復し、景気拡大と縮小の分岐点となる 50 を上回る高水準になりました。しかし、ブラジル経済は商品価格下落や財政引き締め強化が重圧となっていることから、製造業活動も当面は本格的な回復は難しいとの見方もあり、財政状況の改善は、一方でブラジル経済の悪化にさらに拍車をかけるというジレンマに陥りかねない状況になっています。

3 月 4 日の為替市場では、前日(現地 3 日)、ルセフ大統領が議会に提出した緊縮財政政策の大統領令を上院が拒否したことが嫌気され、リアルは一時対ドルで急落し、1 ドル=3 レアルまで売られる場面もありました。その後、1ドル=2.97レアル近辺で引けました。

＜ブラジル政策金利と実質金利の推移＞  
(2003年2月1日～2015年1月21日)



2015年3月4日  
12.25%→12.75%へ  
0.50%の引き上げ

\*政策金利：Selic を使用 \*実質金利：名目金利とインフレ率を使用し算出 (データ出所：ブラジル中央銀行)

■本資料は BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社が上記の時点で作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。■本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。■本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。